

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「バラエティ・オープン」は、このたび、第303期～第308期の決算を行いました。本ファンドは、日本を除く主要先進国の債券および通貨への投資を通じて、高いインカム（利息等）収益の確保を図りつつ、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第308期末 (2023年11月10日)	第303期～第308期		
基準価額	7,547円	騰落率	-0.9%
純資産総額	6,261百万円	分配金合計	30円

(注) 騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書（全体版）を電子交付できる旨が定められております。運用報告書（全体版）は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

〈閲覧方法〉

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「ファンド一覧」より本ファンドを選択⇒「運用報告書（全体版）」を選択



交付運用報告書

バラエティ・オープン

追加型投信／海外／債券

第303期（決算日2023年6月12日）
第304期（決算日2023年7月10日）
第305期（決算日2023年8月10日）
第306期（決算日2023年9月11日）
第307期（決算日2023年10月10日）
第308期（決算日2023年11月10日）

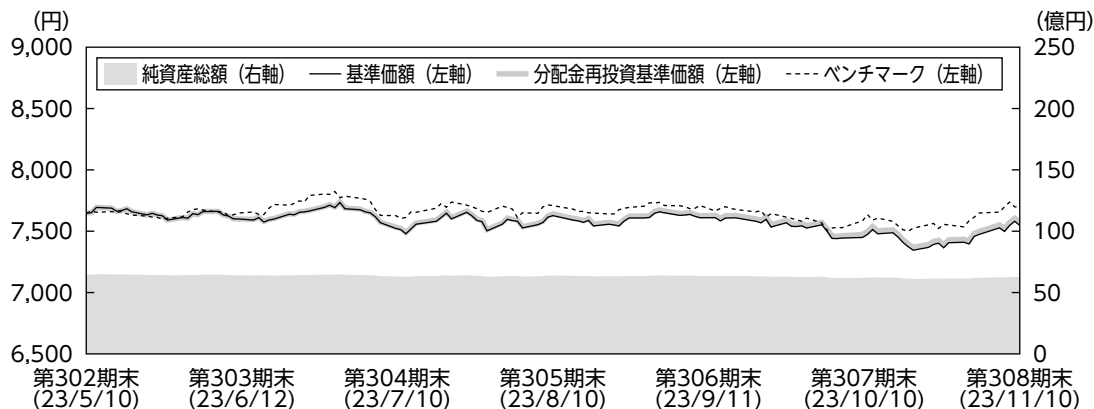
作成対象期間：2023年5月11日～2023年11月10日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先：03-6437-6000（代表）
受付時間：営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

運用経過

■ 基準価額等の推移について（2023年5月11日～2023年11月10日）



第303期首：7,647円

第308期末：7,547円

(当作成期中にお支払いした分配金：30円)

騰落率：-0.9% (分配金再投資ベース)

(注1) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル 除く日本、50%円ヘッジ) です。

(注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注4) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、当作成期 (以下、「当期」といいます。) の期首の基準価額を起点として指数化しています。

(注5) 騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の7,647円から100円下落し、期末には7,547円となりました。

上昇要因

保有する債券からの利息収入のほか、米ドルなどの投資対象通貨が対円で上昇したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

主要投資対象である米国債の利回りが上昇 (価格が下落) したこと、分配金をお支払いしたこと、為替ヘッジに伴うヘッジ・コストなどが基準価額の下落要因となりました。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第303期～第308期		項目の概要
	2023年5月11日～2023年11月10日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	72円 (38)	0.951% (0.498)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(31)	(0.415)	
(受託会社)	(3)	(0.039)	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	1 (1) (0)	0.016 (0.011) (0.005)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	3 (1) (0) (2)	0.040 (0.009) (0.002) (0.029)	
合計	76	1.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用

期中の平均基準価額は7,577円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む。）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

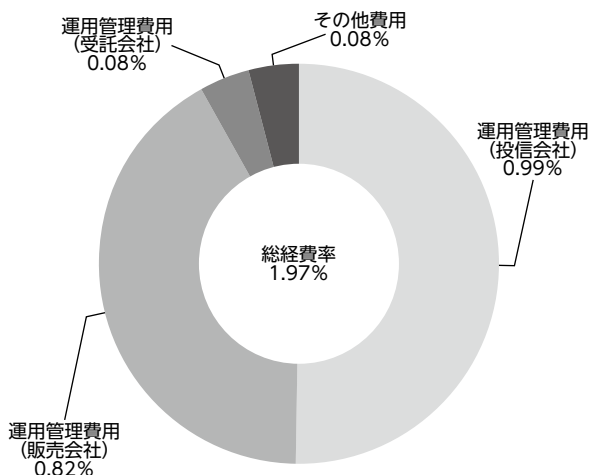
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.97%です。



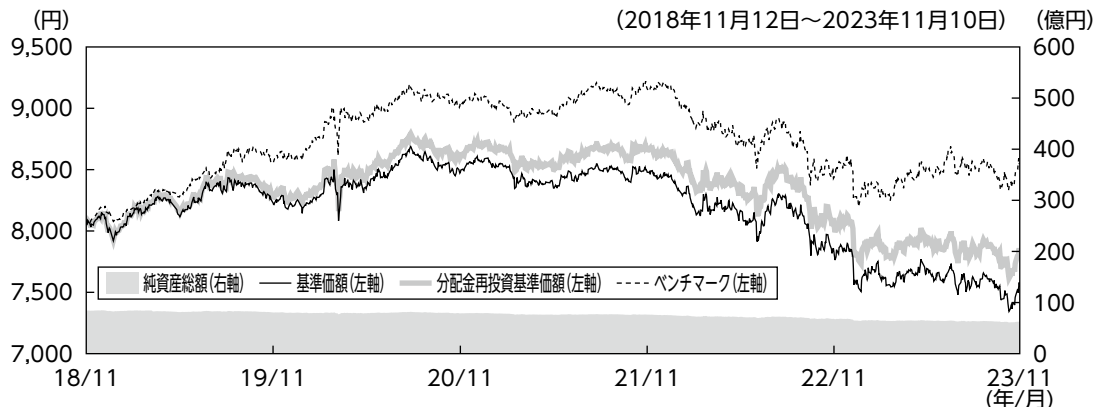
(注1) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2018年11月12日の基準価額を起点として指数化しています。

(注4) ベンチマークはJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル 除く日本、50%円ヘッジ)です。

最近5年間の年間騰落率

	2018/11/12 決算日	2019/11/11 決算日	2020/11/10 決算日	2021/11/10 決算日	2022/11/10 決算日	2023/11/10 決算日
基準価額(分配落) (円)	8,069	8,235	8,485	8,501	7,856	7,547
期間分配金合計(税引前) (円)	—	60	60	60	60	60
分配金再投資基準価額騰落率	—	2.8%	3.8%	0.9%	-6.9%	-3.2%
ベンチマーク騰落率	—	6.0%	5.4%	2.0%	-7.3%	0.4%
純資産総額(百万円)	8,440	8,073	7,890	7,652	6,814	6,261

(注1) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てで表示しています。

(注3) ベンチマークはJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル 除く日本、50%円ヘッジ)です。

■ 投資環境について

<外国債券市場>

当期は、米国、ドイツともに指標となる10年国債利回りは前期末から上昇（価格は下落）しました。

米国では、期中の中旬にかけて、2023年4－6月期のGDP（国内総生産）成長率が事前予想を上回り、米国経済が底堅く推移していることが確認されたことや、エネルギー価格の上昇に伴うインフレ圧力などを背景に国債利回りは上昇傾向となりました。期末にかけては、雇用関連統計やインフレ関連指標等に鑑み、FRB（米連邦準備制度理事会）が利上げを一旦停止するとの見方が強まり国債利回りが低下しましたが、前期末対比では上昇する展開となりました。また、ユーロ圏でも、経済指標が好調だった局面やインフレ指標が事前予想を上回った局面などで国債利回りが上昇する相場環境となり、ドイツ国債利回りも前期末対比で上昇しました。

<外国為替市場>

当期の外国為替市場では、米ドル、ユーロは対円で上昇しました。米経済の想定外の堅調さと、それに伴う米長期金利の上昇から、米実質金利が一段と上昇したことが円安米ドル高要因の一つとなりました。ユーロについては、期中、インフレ抑制に向けてECB（欧州中央銀行）が3回の利上げを実施し、日本との金融政策の違いによる金利差拡大が意識されたことなどを背景に、前期末対比で円安ユーロ高となりました。

■ ポートフォリオについて

主として日本を除く主要先進国の債券および各国の通貨への投資を通じて、高いインカム（利息等）収益の確保を図りつつ、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行いました。

債券

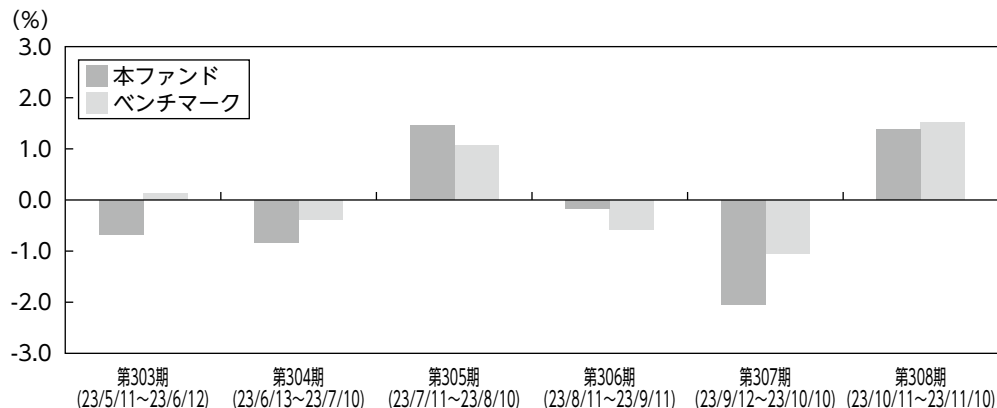
期首時点では、デュレーション戦略については引き続き機動的にポジションを調節する方針とし、英国につきデュレーションの長期化ポジションをとっていました。国別配分戦略では、オーストラリアや米国などのオーバーウェイトに対して、カナダやユーロ圏（ドイツ）などをアンダーウェイトとするポジションなどをとっていました。セクター配分戦略では引き続き社債や資産担保証券をオーバーウェイトとしていました。期末時点では、デュレーション戦略については引き続き機動的にポジションを調節する方針とし、足下では米国につき金利デュレーションの小幅長期化ポジションをとっています。国別配分戦略では、英国や米国などのオーバーウェイトに対して、カナダやユーロ圏（ドイツ）などをアンダーウェイトとするポジションなどをとっています。セクター配分戦略では引き続き社債や資産担保証券をオーバーウェイトとしています。

通貨

期首時点では、米ドル、ユーロ、スイス・フランなどをオーバーウェイトとする一方、カナダ・ドルや英ポンドなどをアンダーウェイトとしていました。期末時点では、米ドル、ノルウェー・クローネ、豪ドルなどをオーバーウェイトとする一方、カナダ・ドルやユーロなどをアンダーウェイトとしています。

■ ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



(注1) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル 除く日本、50%円ヘッジ）です。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は-0.9%となり、ベンチマーク（+0.7%）を下回りました。

セクター配分戦略やデュレーション戦略などがプラスに寄与したものの、国別配分戦略や通貨配分戦略などのマイナス寄与が相対的に大きくなりました。国別配分戦略では、英国のオーバーウェイトに対する欧州（ドイツ）のアンダーウェイトポジションなどがマイナス寄与となりました。一方で、セクター配分戦略における投資適格社債のオーバーウェイトポジションなどがプラス寄与となり、マイナス寄与幅が一部相殺されました。

■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、第303期から第308期は各5円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

<分配原資の内訳>

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第303期	第304期	第305期	第306期	第307期	第308期
	2023年5月11日 ~2023年6月12日	2023年6月13日 ~2023年7月10日	2023年7月11日 ~2023年8月10日	2023年8月11日 ~2023年9月11日	2023年9月12日 ~2023年10月10日	2023年10月11日 ~2023年11月10日
当期分配金	5	5	5	5	5	5
(対基準価額比率)	0.066	0.066	0.066	0.066	0.067	0.066
当期の収益	5	4	5	5	5	5
当期の収益以外	—	0	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	164	163	174	179	182	197

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

今後も主として日本を除く主要先進国の債券および各国の通貨への投資を通じて、高いインカム（利息等）収益の確保を図りつつ、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。

当社の投資戦略に関して、金利戦略では、米国のインフレ圧力の一服感からFRBは一旦利上げを停止すると考えており、今後の経済動向についてはソフト・ランディングを基本シナリオとしているものの、ハード・ランディングシナリオも勘案しつつ、引き続き機動的にポジションを動かす方針です。セクター配分戦略では社債、資産担保証券などをオーバーウェイトとしています。通貨配分戦略では、米ドルなどをオーバーウェイトとする一方、ユーロなどをアンダーウェイトとしています。景気が想定以上に悪化するリスク・シナリオも検討しつつ、リターンとリスクのバランスを重視し選択的・機動的にポートフォリオを構築することで、市場の不確実性に対応する方針です。

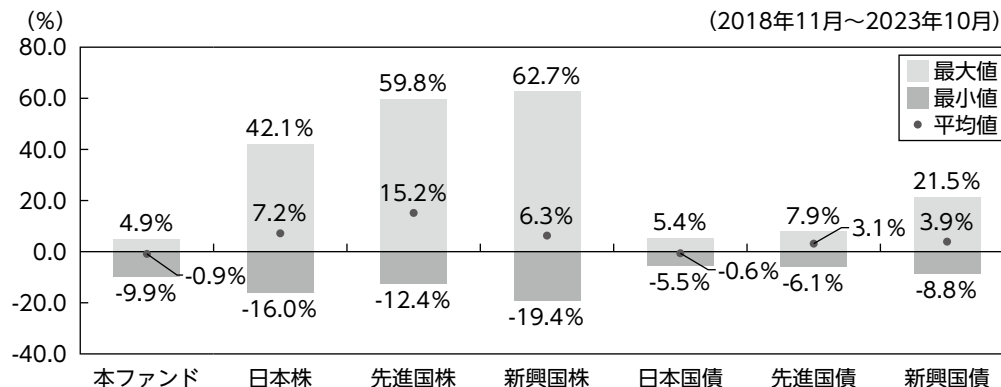
（上記見通しは2023年11月10日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	原則として無期限
運用方針	高利回りの外国公社債を主要投資対象とし、高いインカム（利息等）収益の確保をめざします。
主要投資対象	高利回りの外国公社債
運用方法・組入制限	①公社債を組入れた後、投資内容に伴う為替リスクのヘッジ目的および投資収益を上げる目的で為替管理を行います。 ②主要な投資対象である外国公社債は、原則として取得時にA格以上とします。 ③デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。
分配方針	原則として毎計算期末（毎月10日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

(参考情報)

■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2018年11月から2023年10月の5年間ににおける1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

□東証株価指数 (TOPIX) の指数値および東証株価指数 (TOPIX) に係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。□MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与するその他すべての者 (以下総称して「MSCI当事者」といいます) は、MSCIの情報について一切の保証 (独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません) を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害 (逸失利益を含みます) およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。□NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。□FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。□JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバルに関する著作権は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

本ファンドのデータ

■ 本ファンドの組入資産の内容 (2023年11月10日現在)

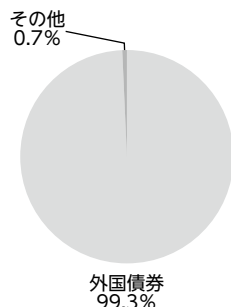
○ 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：78銘柄)

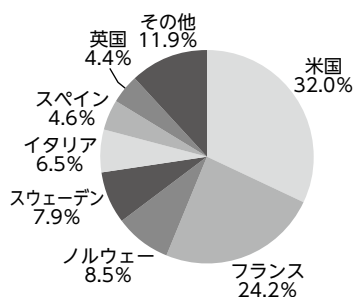
	銘柄	通貨	比率
1	FRENCH DISCOUNT T-BILL0%	ユーロ	14.2%
2	TREASURY BILL 0%	米ドル	9.5%
3	NORWEGIAN GOVERN 1.5%	ノルウェー・クローネ	8.5%
4	SWEDISH GOVT 2.5%	スウェーデン・クローナ	7.7%
5	BTPS 6%	ユーロ	5.5%
6	US TREASURY N/B 1.875%	米ドル	4.1%
7	US TREASURY N/B 2.25%	米ドル	4.1%
8	FRANCE (GOVT OF) 0%	ユーロ	3.4%
9	UK TREASURY 4.25%	英ポンド	3.1%
10	BONOS Y OBLIG D EST 1.5%	ユーロ	2.9%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

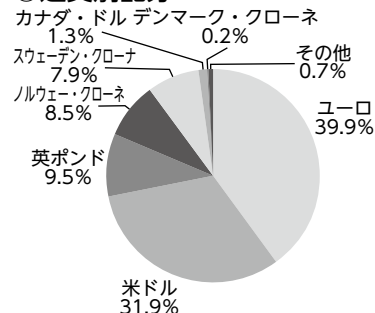
○ 資産別配分



○ 国別配分



○ 通貨別配分



(注1) 上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注2) 国別配分は、発行国もしくは投資国を表示しています。国・地域別による配分です。

(注3) 通貨別配分は、資産別配分における発行通貨にて表示しています。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

■ 純資産等

項目	第303期末	第304期末	第305期末	第306期末	第307期末	第308期末
	2023年6月12日	2023年7月10日	2023年8月10日	2023年9月11日	2023年10月10日	2023年11月10日
純資産総額	6,396,640,528円	6,311,049,043円	6,387,675,999円	6,355,415,594円	6,196,610,904円	6,261,626,006円
受益権総口数	8,426,636,094口	8,389,046,176口	8,375,350,478口	8,350,945,425口	8,318,632,402口	8,296,897,775口
1万円当たり基準価額	7,591円	7,523円	7,627円	7,610円	7,449円	7,547円

(注) 当作成期首元本額は8,435,386,709円、当作成期間（第303期～第308期）中において、追加設定元本額は24,784,830円、同解約元本額は163,273,764円です。